

希望が丘公園に生殖する 「きのこ観察会」


主催

滋賀県レイカディア大学
米原校サポート隊

希望が丘公園に生殖する きのこ観察会に参加しませんか！



主催 滋賀県レイカディア大学
米原校サポート隊

1. 日時 平成 25 年 9 月 26 日 (木) 集合 9 : 30 (受付 9 : 00 から)
2. 集合場所 希望が丘公園多目的ひろば (文化ゾーン側・東駐車場近く)
3. 対象者 米原校全学科 (在学生・卒業生)・一般希望者含む
4. 各自で用意する持物類
昼食弁当・お茶・軍手・敷物・筆記用具・カメラ等
服装はハイキングのできる軽装・ナップザック・帽子・タオル等
雨具類もご用意ください。
5. その他 
 - ① 終了解散予定は 14 : 30 頃
 - ② 駐車場 (1 台 500 円) で有料となります
 - ③ 出来るだけ乗り合わせでお願いします
 - ④ 小雨決行とします (中止の場合は前日までに連絡します)
 - ⑤ できれば「きのこ図鑑」お持ちください
 - ⑥ 交通アクセス (車利用の場合)
 - * 名神高速竜王 I C から 2.3 km
 - * 国道 8 号線 (西横関交差点) から竜王インター方面へ 7.2 km
 - ⑦ 交通アクセス (JR・バス利用の場合)
 - * JR 近江八幡駅東口から近江バス青年の城行き (7:51 発)
 - * 帰りは希望が丘西口から JR 野洲駅へバス乗車が便利です

切り取り

FAX 0748-34-7705

滋賀県レイカディア大学米原校 サポート隊 あて

「キノコ観察会」参加申込書

お名前

(住所)

(連絡用電話番号)

① 締め切り日 (申込期限)

② 詳細等の照会連絡先 (高木へ) 携帯電話 090-3709-7705 まで

希望が丘「きのこ観察会」実施周辺略図



コックパネ
ウツギ (スイカズラ科)
花は5~6月
がくは2~3片
キバナコックパネの
別名もある

ヤマボウシ
(ミズキ科)
花は6~7月
花びらのような
4片の総苞の
真ん中に花がある
熟した実はい
甘くおいしい

センボンヤリ (キク科)
花は4~6月 9~11月
名前の由来は秋の開鎖花が
大名行列の干本槍のように
見えるから
花びらの裏は淡紫色

ショウジョウバカマ
(ユリ科)
花は3~5月
湿り気のある所に多い

カンヒザクラ (バラ科)
(ヒカンザクラ)
花は2~3月

コバノミツバツツジ
(ツツジ科)
花は4~5月
満開時には山肌が紅紫色に
染まるほど多い

ハルリンドウ (リンドウ科)
花は4~6月
湿地に生え群生することが多い
満開時には紫の宙石をまいたよう

チゴユリ
(ユリ科)
花は4~5月
下向きに小さな花をつけるので
目立たないが可憐な花
秋には丸い実がつやのある藍色に熟す

ウワミズザクラ
(バラ科)
花は4~5月
蕾や若い果実は
塩漬けにして食べる

キラランソウ (シソ科)
別名ジゴクノカマノフタ
花は4~5月

マモモ (ヤマモモ科)
~7月に赤く熟した
は食べられる
園樹として各地で
植えられている

ホナガ
タツナミンウ
(シソ科)
花は6月
張が立っている
ような形の花

トウカイ
コモウセンゴケ
(モウセンゴケ科)
花は6~9月
食虫植物
モウセンゴケより
小さい

スイレン
(スイレン科)
花は7~8月
スイレン (睡蓮) はヒツジグサの漢名
古くから栽培され交配によって
多くの園芸品種がある
自生のヒツジグサは日本に一種

(ユリ科)
月
花は色は
く見ると美しい

9月26日キノコ観察会 スタッフ者名

役割		名前	携帯番号	電話
受付・救護班	代表(28期園芸)	高木 淑	090-3709-7705	0748-34-7705
	31期生活	平塚 萬里子	090-2359-5960	0749-62-5960
	32期健レク	小高 邦子	090-5246-7727	0749-82-2861
	33期生活	中野 他家子	090-5246-7727	0748-52-3111
広報担当	33期園芸	守野 吉一	080-1417-0931	0748-28-3200
安全パトロール		山崎 考輔		0748-46-5970
(クールシェア広報)		西川 實	090-3925-1768	
		中江 洋二郎		
1班	31期園芸	真壁 栄禧	090-4039-6216	0749-72-3273
	31期園芸	富永 洋司	090-5055-4640	0749-82-3964
2班	31期園芸	大蔵 勢一郎	090-1029-9913	074823-1582
	31期園芸	川村 正司	090-8652-2173	0748-42-9555
3班	31期園芸	川添 茂		0749-23-5022
	31期園芸	藤居 忠治	080-3804-5816	0748-42-3418
4班	31期園芸	中川 義亮	080-3102-8685	0749-74-4065
	31期生活	小宮 俊昭		0749-23-0009
5班	32期地文	児玉 正孝	090-1585-7501	0749-22-9134
	33期園芸	山岡 勉	090-8755-1188	0749-23-1641
6班	30期園芸	西田 英一郎	090-7753-6719	0749-62-4605
	33期健レク	居原田 金治	090-7350-8645	0748-45-0372
7班	22期地文	岡田 定一		0748-34-8656
	32期地文	百田 勝彦	090-4769-5135	0749-28-3055
(広報兼務)	33期園芸	守野 吉一	080-1417-0931	0748-28-3200
8班		塩川 和宏		0748-32-1346
		古川 芳和		0748-33-2344

キノコ観察会

希望が丘公園文化公園で初秋に見ることが出来る、キノコのリストを今回公園側から提供いただきましたのでキノコ観察会に参考にして下さい。

「菌類」とは一般にカビ、キノコ（真菌類）のことを指します。

キノコといえば、キノコ狩りが浮かぶほど私達の食生活とも関連しています。

数種類のキノコ参考写真



チチタケ(食用可)

ブナ科広葉樹林 傘は径5~10センチ。初めは丸山形であるが、やがて開いて浅い漏斗状となる。夏から秋にブナ科の林内の地上に発生する。味に多少くせがあるが、好んで食用にする人も多い。



ハナオチバタケ(食用可)

初夏~秋、林内の落葉、落枝上に群生する小型のキノコ。傘は0.8~2cm、表面は黄褐色、淡紅色などで放射状の溝がある。毒キノコではない。



キツネタケ(食用可)

雑木林 市街地、公園の芝地に群生する。柄の高さ3~5cm、傘の径3cm程度の小型 食用に可能



イッポンシメジ(毒)

広葉樹林に単生~散生傘中=大型傘の色濃い黄土色~灰、色、胃腸系の中毒を起こす。ホンシメジ「食用」ウラベニホテイシメジ「食用可」と似ており間違えての中毒例が多い。



アカヤマタケ(毒)

小型、傘円錐形から平たくなるが、中央部とがっている赤色、柄は黄色、～オレンジで表面の繊維状の縦線がある。食用可能、サラダに入れて美しい姿を楽しむ、体質によっては酒酔い状態になり中毒症状を起こすこともある。



クロハツ(毒)

針葉樹林 見分け方 どの部分でも、傷をつけると初めは赤く後に黒く変色する。毒性が強く胃腸系の中毒を起こす。死亡事例もある。よく似た別種が、数種類存在することが知られている。



ニセクロハツ(毒)

夏、シイ、カシ林などの地上に発生する。まつたけ目ベニタケ科の毒キノコ。傘は径5～11センチ、初めはまんじゅう形で、のちに浅い漏斗(ろうと)状となる。

毒性が強く胃腸系の中毒、言語障害、心臓衰弱後に死亡する。



イタチタケ(毒)

ヒトヨタケ科。夏～秋にかけて広葉樹の古い切り株、倒木またはその近くの地上に群生する。傘は径2～7cm、水分を含んでいる時は黄褐色、乾くと灰黄白色～淡黄褐色となり、こわれやすい。若い傘の縁には内被膜の破片がつくが落ちやすい。ひだは密、はじめは白く、やがて肉色をおび、ついに帯紫褐色となる。



カエ نداケ(毒)

夏～秋にかけて広葉樹林内の群生～単性、ナラ枯れ病の切り株付近に発生する。野州市、大津市に注意報が出る。表面はオレンジ色～赤色全面の光沢がある。皮膚刺激性が強いので、皮膚につけないこと。世界一毒性が強い。3gで致死量。胃腸系、神経系、肝不全、腎不全、呼吸器不全、循環器不全、脳障害など全身に症状が出て死に至る。

キノコ観察会に早朝よりお集まり頂きましてありがとうございます御座います
希望が丘文化公園は、動植物の採取は厳しく禁じられていますので今回の
観察会も、キノコを発見したら、多くの人に声を掛けていただき、よく観
察をして写真撮影をしていただき後日品名の同定に役立てて下さい

一般的なキノコ狩の注意事項があります

キノコが自生している場所

その年気候、気温。雨量、日当たりの良い場所か、春か、
夏か、晩秋などで、生育するキノコの種類が異なる
キノコは樹木と共生関係にあるので何種類もの菌類が共生し
ている

例えば コナラの周辺で初秋に、ホンシメジ、エノキタケ
タマゴタケを見つけることができる周囲が、
どのような植物環境にあるかを、観察することが大切です
シメジを探すには、朝日が当たる東南斜面

一般的にキノコがよく発生のは、下草の少ない東北斜面
マツタケを探すには、赤松の枝良く伸びた南側をさがせと言
われている

ホンシメジ、タマゴタケ、ナラタケモドキ、ナラタケ
サクラシメジ、キクラゲ

クヌギ、コナラの雑木林、どんぐりの実が落ちる頃
同一の場所で、毎年発生する順番が決まっているので
それを知っていると毎年、同じ時期に同じ場所で、
同じキノコが収穫できるようになる

- キノコ狩のルール
- 1 自然の山なかでも所有者がいて、縄を張ってキノコ栽培をしている所があるここは [禁止区域] です
 - 2 採取する際 地面から生えているキノコは、採取後は穴を掘ったら埋め戻すこと
 - 3 周囲をあまり踏み荒らさない
(山の生態系を乱さないこと)
 - 4 ゴミの持ち帰りを確実にすること

- キノコを見つけたら
- 1 よく観察して種類を判断する キノコ図鑑を参考にとく検討する
今回は班別行動なので班員の人にも見てもらう
 - 2 古いものは採らない カビ、バクテリアの繁殖の恐れがある
今回は持ち帰り禁止です
 - 3 食用のものに似ている怪しいものは採らない
今回は持ち帰り禁止です
 - 4 食用可能なキノコでも、食べる分だけ採る
今回は持ち帰り禁止です
 - 5 山を荒らさない 地上のキノコだけを採り、地下の菌糸を傷つけない

日本全国で名前が付いているキノコ約3000種ほどあるとさされているが
名前の付いていないキノコもある 食用にできるか不明な点もある

一般的に 約10% 200~300種 が毒キノコ
1% 30種 猛毒キノコとされています

他に昔から食用可能品種、

食べられるが美味しくないキノコ（食用不適）

名前も不明、食用か、毒成分の有無不明など解明されていない
物が多いので注意をして欲しい

1つ1つ、確実に覚えることです、毒キノコを簡単に見分ける方法は、
ありません

生きたキノコに、実際にふれ、そして覚えてください

たくさんの野生キノコに出会いましょう

今日は、キノコと出合いを楽しんでください

毒キノコ対策 1 正しい知識を身につける

- 2 一般的な毒キノコを簡単に見分ける方法はありません
- 3 1種 1種名前とキノコの特徴を覚えることが大切です
- 4 [キノコ通と言われる人の鑑定を信じない]
今回はキノコの名前同定しません
- 5 林業試験等の学者が書いた図鑑を参考に広く知識を
深めてください

キノコを食べて気分が悪くなったら

- 1 食べた物を出来るだけ吐き出せる
- 2 猛毒の可能性もあるので一刻も早く医療機関に行くこと
- 3 食べた物を一緒に持ち込むと判断がしやすい

毒キノコの症状からの分類

① 消化器系中毒

胃腸など消化器系を刺激する 嘔吐、下痢、腹痛を起こす
主な品種 カキシメジ、ツキヨタケ、ニガクリタケ

② 中枢神経に作用する

よだれ、発汗、嘔吐、下痢、腹痛、精神錯を起こす
主な品種 ベニテングタケ

③ 悪酔いを引き起こす、アセトアルデヒドの分解を阻害する

ヒトヨタケ、ホテイシメジ、

④ 催幻覚作用がある LSDと同様麻薬原料に指定されている

含有成分 [シロチシン、シロシン]

ワライタケ、シビレタケ、ヒカゲシビレタケ、

⑤ 致命的となる毒キノコ 肝臓、腎臓に致命的な障害をあたへ死を もたらすタンパク質の合成をを阻害し、細胞組織が再生されなくな るように作用する 消化吸収され肝臓 腎臓組織が破壊される

ドクツルタケ、コレラタケ、 テングタケ、 カエンダケ

マツタケ山の再生について [放置されたマツタケ山の再生]

よく昔はどこの山にもマツタケが取れたと言う話を聞くことがあります
再生するにはどうしたらいいか

- 1 マツタケ山にも寿命がある 赤松の樹齢60年を過ぎると出ない
- 2 雑木の整理 一部を残して根元から切る
- 3 腐植物のかきとり 赤土の層が見えるまで、貧栄養化状態にする
- 4 松より高い木の除去 松を元気にする
- 5 日当たり、風通しをよくし地面に木漏れ日が当たるぐらい
- 6 この様な作業を継続的に行いう切り株、残った雑木の幹から新芽がでるので。これを除去する
- 7 菌の接種 マツタケの胞子を水にとき散布する
- 8 松食い虫の防除 枯れた松の除去
- 9 この様な作業を継続的に行うで成功している事例が報告されているのでご検討して欲しい

ハナビラタケをかつらぎ産業から提供させていただきましたので
紹介します

和歌山の [株式会社かつらぎ産業] のご協力を得て今回参加した
皆様にハナビラタケを提供して頂きましたので試食していただける事になりました

ハナビラタケ 深山に生え、抗菌作用のある幻のキノコと言われている
カラマツ、モミの針葉樹林の立ち枯れ、切り株に発生
標高1000m以上の高山に生えるものを人工的に栽培されている
ものです

抗がん作用、免疫力を高める(ベーターグルカン)が豊富に含まれる
料理方法 歯触りもよく味も優れる名菌の一つと言われている

くせがないので湯豆腐、すき焼き、鉄板焼き、湯がいて酢の物、マヨネズ
あえ 等が有り今後 他の一般的なキノコ同様に普及されるでしょう

かつらぎ産業 からハナビラタケに関する資料を提供されていますので
添付します

希望が丘公園で見られるキノコたち(ほんの一部)

探してみましょ!! いくつ見つかるかな? 見つけたら写真に!!
 触れるだけで炎症を起こす種類もあるので、触るのは慎重に!!



アブラシメジ

フウセンタケ科フウセンタケ属

食べられる

- ・秋に部中野広葉樹林内地上に発生する。全体にぬめりがあり、日本人にはとても好まれる食用キノコのひとつ。
- ・傘は初め半円球で後に中央部が盛り上がった平らになる。色は茶褐色から紫褐色で、表面には多くのしわと著しいぬめりがある。ひだは灰褐色から茶褐色で、柄に上生から離生し、並び方は密。柄は下のほうに向かって細くなり、白色から紫褐色で表面にはぬめりがある。

ホテイシメジ

キシメジ科カヤタケ属

食べられる

- ・アカマツやカラマツなどの針葉樹や広葉樹の林内に群生する。盃に似ている姿から「チョコダケ」などと呼ぶ地域もある。このキノコを酒類と一緒に食べると中毒して悪酔いする。酒と一緒に食べられないのに実に紛らわしい。アルコール抜きなら何の心配もいらない。
- ・傘は初めまんじゅう形で後にほぼ平らに開く。色は灰褐色から淡褐色。ひだは白色からクリーム色で並び方はやや疎。柄に長く垂生する。柄は傘より淡色で、根元に向かってふくらむ。

ウラベニホテイシメジ

イッポンシメジ科イッポンシメジ属

食べられる

- ・コナラ、クヌギとアカマツの混じった林に群生する大型のキノコ。よく似たクサウラベニタケという毒キノコがあり、注意が必要。見分けのポイントは、ウラベニホテイシメジの傘の表面は霜降り肉様の模様があるが、クサウラベニタケは絹糸状の光沢があり、柄はウラベニホテイシメジでは太く充実しているがクサウラベニタケは比較的細く、中空であるなど。キノコの見分けは、コツを覚えると、ほんの一瞬で判断できる場合もあるが、慣れないうちは、確実なもの以外は口にしないほうがよい。
- ・傘の表面は灰褐色から灰黄褐色で表面には霜降り肉様の模様がある。ひだは初めクリーム色で胞子が成熟するとピンクになる。えは、つば、つぼを欠き、肉は充実して、指でつまんでも容易につぶれない。

クリフウセンダケ

フウセンタケ科フウセンタケ属

食べられる

- ・コナラやクヌギ、ミズナラなどのナラ類の林内に群生。「かきしめじ」と呼ぶ地方もあるが、本当の「かきしめじ」は毒キノコであり、注意が必要。このようにキノコには地方名と呼ばれる名称を数多く持つものがあり、はなはだしい場合には、コノクリフウセンダケのように毒キノコと食用キノコが同一名称になってしまう場合もある。名前だけでなく、実物を見て確認が必要。
- ・傘は初めまんじゅう形で後に平らに開き、色は淡褐色から黄褐色で、表面が湿っている。ひだは初め白色、後に淡褐色となり、しばしば大きく曲がり、根もとはややふくらみ、淡紫色をおびる。柄の上部にはクモの巣状から綿毛状のつばをもち、色は胞子の付着により褐色になる。

クロハツ

ベニタケ科ベニタケ属

食べられる

- ・梅雨から秋にかけ赤松、黒松などの松林やブナ林などに発生。似たキノコにクロハツモドキやニセクロハツ(猛毒)がある。クロハツやクロハツモドキは傷つけるとまず赤変し、さらに黒変するが、ニセクロハツは傷つけても赤変するだけである。外見上はほとんど区別がつけがたい時もあるので変色性に注目したい。
- ・傘は初め中央部がへこんだまんじゅう形で後には開いてじょうご形にそりかえる。色は初め汚白色だが後にほとんど黒変となる。ひだは初め白色で後に黒褐色になる。並び方は疎で柄に直生する。柄は表面の色は傘とほぼ同色。太くてかたい。キノコに傷をつけるとまず赤変しさらに時間がたつと黒色に変わる。

	タマゴタケ	テングタケ科テングタケ属	食べられる
<ul style="list-style-type: none"> 夏から秋にかけてコナラ、クヌギなどの広葉樹林やシラビソなどの針葉樹林内の地上に点々と、あるいは列状に発生する。以前にはヨーロッパ産のタマゴタケと同一種と考えられていたが、最近の研究では別種とされるようになった。全体が非常に派手な色のために、はじめは気味悪がられるが、一度味を覚えると病みつきになるほどだという。ヨーロッパでは皇帝きのこと呼ばれ珍重されている。類似の毒きのこであるベニテングタケとはひだ、柄、つばの色が違うので区別は容易である。ただし毒きのこのタマゴタケモドキの中にはよく似た個体もあるので注意が必要である。 傘の表面は鮮やかな未紅色で周辺部に放射状の模様がある。ひだ、柄、つばは卵黄色でとても美しく、柄にはオレンジ色のまだら模様があり、中空。つばは袋状で白色である 			
	ヌメリイグチ	イグチ科ヌメリイグチ属	食べられる
<ul style="list-style-type: none"> 夏から秋にかけてアカマツ、クロマツなどのマツ類の木の下の発生する。広く食用にされていて多くの地方名がある。管孔部分は消化が悪いため取り除いてから利用した方がよいといわれている。 傘は初め半球形から饅頭形で後にはほぼ平らに開く。表面の色は赤褐色から暗褐色で、著しくぬめぬめ。管孔は柄に直生し、孔口は初めクリーム色のちには黄褐色になる。柄は淡黄色で表面には黄色から淡褐色の微細な粒点があり、膜質帯紫色のつばをもつ。 			
	ツキヨタケ	キシメジ科ツキヨタケ属	毒キノコ
<ul style="list-style-type: none"> 夏から秋にかけてコナラ、クヌギなどの広葉樹林やシラビソなどの針葉樹林内の地上に点々と、あるいは列状に発生する。以前にはヨーロッパ産のタマゴタケと同一種と考えられていたが、最近の研究では別種とされるようになった。全体が非常に派手な色のために、はじめは気味悪がられるが、一度味を覚えると病みつきになるほどだという。ヨーロッパでは皇帝きのこと呼ばれ珍重されている。類似の毒きのこであるベニテングタケとはひだ、柄、つばの色が違うので区別は容易である。ただし毒きのこのタマゴタケモドキの中にはよく似た個体もあるので注意が必要である。 傘の表面は鮮やかな未紅色で周辺部に放射状の模様がある。ひだ、柄、つばは卵黄色でとても美しく、柄にはオレンジ色のまだら模様があり、中空。つばは袋状で白色である 			
	ナメコ	科属	
<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 			
	テングタケ		

当日見つけた「きのこ」 ほんの一部です(写真)

